

県都・福井市のシンボル“福井城址”周辺の魅力を高める都市デザインの創出

●提案の要旨

今回の対象地区におけるまちの活性化を提案する上で、私たちが一番心がけた点は「ネットワーク整備」。まちのネットワークを確立させることで地域に根付き一体となった街、訪れた人にも福井市の良さを体感できる街にしようという狙いのもと「過去」「囲み」「未知(道)」「小道」という四つの主題を掲げ、線的な計画を行うこととした。以下に、主軸となる四つの項目の説明をしていく。

「過去」

かつて福井城が存在したこの土地(堀内部)は現在、駅前という好条件の一等地になっている。この地にシンボルとしての機能が大きい期待できる福井城を復元することで人が集まるようにする狙い。また、堀の内部の空き地の一部を菜園にし、近接する小学生に農業体験をさせてあげるなど地域に根付いた活動を行える場所に。

「囲み」

福井城の復元を受け、周辺のアクセス改善を行うため LRT を敷く。これにより、福井城⇄足羽山、駐車場⇄福井駅などの往來を楽にする。大通りを線路で圧迫しすぎないようにするため、環状線は単線、反時計回りの一方通行とする。

「未知(道)」

LRT 設置に伴いその走行を円滑化させるため、車の移動経路を散在する駐車場の集約をした立体駐車場の設置、歩行者空間の確立などで生み出す。さらに、LRT が通る 4 つの大通りでは景観にそれぞれ特色を持った街路とすることで、移動しながらでも景観を楽しめ、四季を感じられるメインストリートに。

「小道」

LRT の停留所、駐車場などを始点とした歩行者専用・優先道路に整備し、散歩道として確立する。また、新設した立体駐車場の側から古風な景観地区として整備し、エリア一帯を塀で囲み、城下町の風景を演出する。このエリアの西には福井城、東には LRT の停車駅が側にあることで足を延ばす範囲は広がると想定される。

以上のことを主軸として、対象地区の活性化を図りたい。